

北光



北光会

(<http://www.hokkokai.com>)

秋田 鉾山 専門 学校
秋田 大学 鉾山 学部
秋田大学工学資源学部 同窓会
秋田大学国際資源学部
秋田 大学 理工 学部

第159号 (平成27年10月23日)



通常総会(p.3-p.28)



平成27年度北光会連合総会・重開会(2015年11月20日秋田県立・市庁舎ホールで開催)

今号のトピックス

- 平成27年度 第1回理事会・通常総会報告
 - 新会長便り
 - 部活・サークル紹介
「ハンドボール部・ボランティアサークルFrog」
 - オープンキャンパス特集
(各学科の頑張ったで受賞研究室の声)
 - 秋田お届け便
 - 北から南から
 - 支部便り
- など

オープンキャンパス特集(p.10~)



能代宇田イベント(p.20)

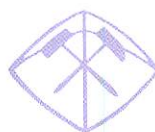


《卒業生の父母の皆様へ》

本誌送付先の変更を希望される場合には、北光会事務局までご連絡ください (北光会事務局 TEL: 018-835-9822)

北光 No.159

[2015]



目 次

会費未納の方へ・会費納入済の方へ

秋田大学みらい創造基金へのご協力のお願い

巻頭言	1
会長便り	2
平成27年度通常総会を終えて	3
寄稿	4
学生クラス幹事	6
輝け秋大生	7
男子ハンドボール部	
ボランティアサークル frog	
Good ol' days ～あの頃に戻ろう～	9
学生の声	10
オープンキャンパス「頑張ったで賞」贈呈式	
オープンキャンパス当日の風景	
「頑張ったで賞」を受賞して	
秋田お届け便	18
あきたサイエンスクラブ科学講座(秋大コース)の開催	
秋田大学発ベンチャー 合同会社トライガルフ	
「能代宇宙イベント」で地方創生	
北から南から	21
平成27年度 北光会第1回理事会・第64回通常総会報告	28
支部便り	40
母校だより	41
事務局から	43
訃報	44
編集後記	45

北光会の活動は会員の皆様に支えられております。
皆様の日ごろからのご協力に感謝いたします。

頼りにされる北光会

副会長 神谷 修 (MS51)

秋田大学は、北光会を頼りにしております。社会は少子高齢化や環境、エネルギーの問題を抱え景気が停滞し、多くの組織が衰退しております。その逆風の中で、秋田大学が発展の道を進むためには、北光会は不可欠です。昭和3年6月2日に創立された北光会は、昭和24年に創立された秋田大学よりも先輩格であり、会員3万人は全国、全世界に羽ばたき貢献しております。北光会の皆さんは、胸を張って大きく自信を持って良いのです。

昨年、工学資源学部が改組されて、「理工学部」と「国際資源学部」が生まれました。いわゆる文部科学省が推進する、「リージョナルセンター（地方創生の拠点）」と「ナショナルセンター（国際貢献の拠点）」の両方が同時に生まれたのは秋田大学だけです。そして2つの学部を結びつける要となっているのが北光会です。

秋田大学が今後、発展の道を歩もうとしたときに、北光会のネットワークと知恵が必要なのです。大学と北光会を強固に結ぶために次の様なことを行なっております。1つには、学生クラス幹事が、「食べて語る会」、「県内企業見学会」などを始めました。これにより、在学中の学生自身が北光会准会員であることを自覚するので、学生と北光会の絆が深まります。2つには、学内の教職員北光会員が、来賓を招いて懇親会を実施する事です。これは、最近10年ほど実施していなかったので、平成26年11月より復活したところ好評で多くの方々が参加し絆が深まりました。

さらに、同窓会と秋田大学の結びつきを強固にするために、今後ホームカミングデーを行ないます。大学祭の時期などに合わせて、同窓生を大学に招いて、講演会や学生との交流会、様

変わりした学内の見学などをゆっくりと行なってもらおう試みです。北光会の皆様今後ご協力願います。

昔話で恐縮ですが、秋田大学手形キャンパスの北門の近くには北光会館という歴史的な純和風の建物があって、懇親会や宿泊も可能で、大学と北光会員の交流の場となっておりました。その後、北光会館は解体して別の建物を建ててしまいました。昔の校舎も北光寮ありません。歴史的な建物がなくなる度に、北光会とのつながりが希薄になってしまったと見ることもできます。今後は100周年記念館にその様な機能を持たせることを望むと共に、ホームカミングデーのような大学と同窓生を結ぶ事業にご協力をお願いいたします。そして、秋田大学と北光会が共に、Win Win 発展の道を歩んで参りましょう。



北光会の更なる発展を願う ～会長就任に当たって～

鈴木 功 (MS40)



今年の夏は異常な暑さでした。外国人観光客も驚いている様です。これも温暖化の影響でしょうか。東海・北陸支部長を7年経験し、後任に道を譲るべく考えていた処、今年3月の選挙にて、何と会長職に選任されました。

驚きと共に身の引き締まる思いであります。今迄の歴代会長は全て鉾山に關与していた部門出身であました。しかし、これからは電気電子、機械等直接鉾山に直結しない部門の方にも会長をしてほしいとの考えがあり、選任されました。

昭和17年生まれの小生は3歳で終戦を秋田で体験しました。幸いにも特に大きな被害は無かったのですが、食糧難であり、生まれてから胃腸が悪く、また良く風邪を引いた様です。車のない時代、小・中学校へ片道2kmの道を雨の日も雪の日も通学しました。以来病気とは縁が切れ、今日に至っています。

昭和39年10月1日新幹線が開通、10月10日東京オリンピックが開催、日本が高度成長の波に乗った翌年の昭和40年に小生は社会人となりました。その頃は電気・機械工業分野では文献や実物の調査等、欧米の技術を吸収し、追いつき追い越すの時代でしたが、今や日本の技術水準は世界をリードするに至りました。そして何と7年後には再度東京オリンピック開催、そしてリニア新幹線開通という時代になりつつあります。小生が取り組んで来た超高速及び可変速回転電機は、あらゆる産業分野に於いて、機械式から電機式に置き換わりつつあります。その最も顕著なものは電気自動車用同期モータでしょう。車と言えばガソリンを燃やしてエンジンを駆動させるやり方が当たり前でしたが、何と超高力磁石材料(希土類系)とその適用技術の出現によって、ガソリン不要の車が実用化されたのです。もう一つは、燃料電池車の研究です。何と小生が企業に入った50年前からの研究です。こんなことで燃料が電池に代わるものかと疑問を持ったものですが、それが実現してしまうものです。また音速を超える周速を持つ回転体を駆動する為、磁気特性(Br-Hc特性)が良く、高強度のモーター用材料が求められます。これらは国内外のあらゆる研究機関を活

用して実現してきました。また最近では超高速エレベータ等の出現により、超高層ビルが出現しました。レアアース等の希土類材料は中国の動向に左右されてはいけません。その意味でも国際資源学部が新設されたことは特筆すべきことであります。世界ではまだまだ貴重な資源が眠っています。各国と協調して資源の開発と、その有効活用が期待されます。また、理工学部も新設されました。ご存知の様に現在日本は人口減少に向かっています。大学も縮小・閉校されることがありますが、新設されることは特筆すべきことであります。日本の中での大学が、世界の中での大学となることができます。資源で世界を更にリードしてゆくことが肝心です。

大学で学んだ固有の技術を実社会では用途に応じて具体的な製品・技術に仕上げる必要があります。また日限も要求されます。北光会では「北光会技術相談システム」を立ち上げました。技術相談員としては現在30数名が登録されていますが、更なる相談員を増加させ、技術相談の活性化を図る必要があります。同窓生同志の交流が結果的に問題解決となり、企業に寄与することは大いなる成果と言えます。北光会だけに留まる必要がありません。日本では筑波学園都市にも各種研究所があり、また企業にも種々の研究所を持っています。それらも大いに活用し、実用化できる技術・製品に仕上げる必要があります。

会費納入について述べたいと思います。平成2年、学科名が変更になり、平成6年、その卒業生が社会人となりました。その頃から会費未納者が増えつつあります。北光会は資源と共に理学・工学と幅広い分野があり、北光会内における意識改革が必要となります。しながら活動支援寄付金をお願いした処、沢山の方々にご支援頂いています(北光154号、157号参照)。平成以降の卒業生からもご支援を頂いており、説明をすればご理解いただけるものと考えています。

また、会員の更なる交流を期待してクラス幹事制度を設定しています。これは各クラス自身が、お互いに連絡・関係を深め、各自が抱えている問題を解決することや各クラスの親睦を一層深め、活性化することにあります。ひいては会費納入率アップにもなり、「奨学金支援」にも繋げて行きたいと思います。北光会が益々活性化し、発展することを期待致します。